高知新聞 2012/3/27

京・大阪リポート

真の狂気とは何か

枠にとらわれぬ探求心

京都文教大教授 秋田（あきた） 巌（いわお）さん

優しいまなざしと、対話する人の心を落ち着かせる声。京都文教大臨床心理学部教授の秋田巌さん(54)。精神科医、ユング派分析家としても活躍する。今年1月に研究の一部をまとめた「さまよえる狂気―精神学からの提言」を出版。真の狂気とは何かを問いかけ、従来の精神医学とは異なる患者へのアプローチ方法の必要性を提言している。

∞　∞

いの町生まれ。精神科医を目指したのは学芸高1年の時、友人から借りた北杜夫氏の本がきっかけだった。

「『若き精神科医　北杜夫』という注釈と写真を見て、なぜか精神科医にならなくちゃと思いこんでしまった」

高知医大を卒業後、同病院の神経精神科へ。上司にも恵まれ、好きな研究にも没頭できる環境だったが、物足りない部分があった。

「精神療法家になりたかった。今思えば、周囲の先生は標榜（ひょうぼう）されていないだけで、森田療法など日本生まれの精神療法に精通しておられたんですけど。フロイトやユングらの西洋の心理療法に魅力を感じてしまって…」

医師になって3年目。新たな先生を探して、全国の学会や講演会を巡った。たまたま出会ったのが講演会で高知に来ていた河合隼雄氏だった。

「講演はビンとこなかったんですが、その後の箱庭療法の事例検討会でのコメントに、腰が抜けるほどびっくりした。こんな次元から物事を見る人がいるんだと」

河合氏に師事、夢分析などを受けながら2年半を過ごし、1993年にスイスのユング研究所へ。ユング派分析家の資格を取得し、97年に開学したばかりの京都文教大に赴任した。2004年に日本箱庭療法学会河合隼雄賞を受賞している。

∞　∞

「さまよえる狂気」では症例をそのまま出すのではなく、古今東西の文学、漫画、映画などを使って分かりやすく説明。

「狂気は精神障害の名のもとに精神医学体系のなかに閉じ込められてしまった。狂気と精神病はイコールではない」

美しさへの評価に取りつかれた白雪姫の継母、エドガー・アラン・ポーの小説「黒猫」などを例に取り、真の狂気とは何かについて考察を進める。

「精神医学は医学、つまり自然科学の一分野。原因・結果の軸で見ることも必要だが、精神科はそれだけでは十分ではない。客観が通用しにくい世界。全く別の認識方法で患者に当たらなければならない」

著書では、「精神医学」ではなく、「精神学」という言葉を使う。それで世間に、一石を投ずることができればと考えている。

∞　∞

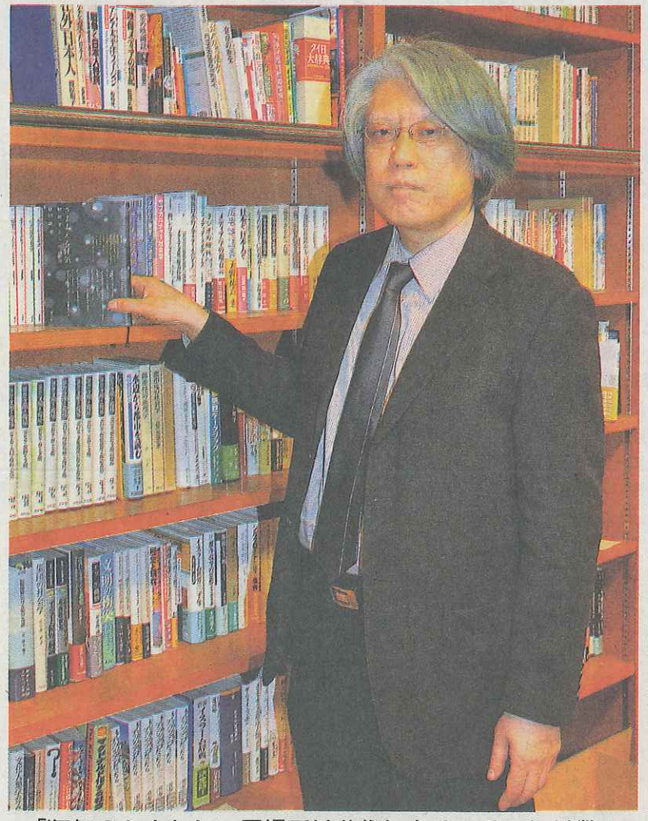
現在の研究の柱は「古典芸能と日本的精神性」や「Disfigured Hero（破形の英雄）」。

「狂美、狂舞という言葉を私は使うのですが、狂気のふさわしい居場所は芸術にあると考えています。『Disfigured Hero』という造語は、研究指導に悩んでいた2000年に突然思いついたんです。漫画『ブラックジャック』のイメージと交錯する感じで。傷を負いながら、歩みを続ける英雄。傷が魅力にまで高まっている。このイメージは西洋には少なく、『北斗の拳』の主人公ケンシロウなど、日本に多いのはなぜか。原爆体験に関係するのでは、とも考えますが今後の課題です」

「最近はテレビドラマも研究対象。『家政婦のミタ』のように多くの人が見ているということは、何かあるんです」

枠にとらわれぬ探求心。その先は無限に広がる。

（大阪支社・池田洋平）



「狂気のふさわしい居場所は芸術にある。そこには数々の舞台が用意されている」（京都府宇治市の京都文教大）

志民 2012 30 志民 2012